

2 基盤共通教育とは

大学は、高等学校までと異なり、各学問分野の学術研究が行われている場です。つまり、みなさんは、学問研究が実際に行われている現場で教育を受けることとなります。その第一歩が、基盤共通教育なのです。

小白川キャンパスには、学部・学科等の区別なく、全ての1年生が集まってきます。そして、専攻の別とは関わりなく、全ての学生に対して共通に、基盤共通科目の授業が開かれています。

2. 1 基盤共通教育と豊かな人間力

山形大学は教育の基本方針として「社会に求められる豊かな人間力」の育成を掲げています。社会で役立つ豊かな人間力を身につけるには、専門教育を通じて高い専門知識を身につけることも重要ですが、それだけでなく、幅広い教養も不可欠です。そしてそのために特定の分野に偏らず、幅広い学問分野を学ぶのが、基盤共通教育の大切な役割です。

人間力を高めるためには、たくさんの知識を覚えることも大切ですが、それだけでなく、自分で課題を見つけて探求したり、問題を解決したりする能力を身につけることが必要です。学問研究はもちろん、実社会でも、絶えず新しい課題に取り組み解決していくことが求められているからです。このような課題発見・探求能力や問題解決能力を身につけ向上することも、基盤共通教育の重要な役割です。

人間力の要素として近年特に重視されているのが、コミュニケーション能力です。発表（プレゼンテーション）能力、議論や討論の能力、レポート作成能力、読解力や傾聴力などのコミュニケーション能力は、大学で学ぶためにも、社会人として活躍するためにも重要ですが、短期間で身につけるのは困難です。入学直後から卒業までの目的意識的な取り組みによって少しずつ向上させていくことが必要です。そしてこのようなコミュニケーション能力の向上も基盤共通教育の欠かすことのできない課題になっています。

国際化・グローバル化が進む現在、日本語のコミュニケーションだけでなく、外国語によるコミュニケーション能力も重要です。そのために基盤共通教育ではコミュニケーション・スキルの授業科目群（英語、初修外国語、留学生向けの日本語）を共通科目として提供しています。また、高度情報化社会で生きるために不可欠な情報科学の授業科目や、理系の基礎を学ぶために必要なサイエンス・スキルの授業科目、健康や身体について理論と実践の両面から学ぶ授業科目、将来のキャリアについて考える授業科目も基盤共通教育は用意しています。

以上のように、基盤共通教育は様々な役割を担っていますが、いずれも学生諸君の人間力を高め、大学生活だけでなく、社会人として活躍するための基盤を形成するのに必ず役立つものばかりです。基盤共通教育を出発点に、人間力を高め、充実した学生生活を送って欲しいと思います。

2. 2 3年一貫学士課程基盤教育について

山形大学は「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の3つの使命と「創造性および豊かな人間性を有する人材を育成する」という教育の基本理念に基づき、新時代に相応しい人間力を養い、知・徳・体の調和の取れた人材を社会に輩出することを目指しています。

この目標を実現するため、豊かな人間性と社会性、幅広い教養と汎用的技能、専門分野で学ぶための基礎的知識と技能を身につけ、地球的視野に立って地域の持続的な発展に寄与することができる人材の育成に取り組んでいます。

3年一貫学士課程基盤教育で3つの基盤力を身につけるとともに基盤力テストを実施します。このテストは、みなさんの学修到達および達成度を可視化し、自らの学びを振り返る自己

学習力を育むために行います。

また、卒業時には、みなさんにディプロマ・サプリメント（学位説明証）を交付し、具体的な教育達成状況を可視化します。

【学問基盤力】 — 自律的に課題に取り組む専門力

専門知識の体系的習得と実践的な運用体験

- ・ 専門教育の順次性、階層性を整理し、基盤専門教育として実施します。
- ・ 実験・演習・ゼミを課題解決型授業とし、専門知識の運用力・実践力を養成します。
- ・ 学部間の類似する授業の互換性を強化し学生の多様な修学ニーズに対応します。
- ・ 各年次の基盤共通教育との相乗効果により基盤専門教育の学修効果を最大化します。

【実践・地域基盤力】 — 社会でリーダーシップを発揮する人間力

力強い学びを保証する主要能力（キーコンピテンシー）と人間力の育成

- ・ 3年一貫のキャリア科目と1年次早期インターンシップを実施します。
- ・ 学びのコミュニティ形成を支援し、協働学習環境でのリーダーシップを育成します。
- ・ 課題に挑戦し生涯学び続ける自己学習力を涵養します。
- ・ 基幹科目「山形から考える」を全学生に必修化とします。
- ・ 地域リーダー育成や多様性に挑む課題発見解決プログラムを提供します。

【国際基盤力】 — 実践的な英語で多様性に挑戦する国際力

基盤としての英語力を4技能・専門別に習得

- ・ 4技能と専門別・レベル別の少数英語授業の3年間包括実施を行います。
- ・ 英語・日本語を含む言語での文章作成・発表能力の強化と国際化を行います。
- ・ TOEIC®テスト等の英語カスタンダードを基盤力テストに導入します。

基盤力テスト

入学時、1年次末及び3年次頃に以下の3種の基盤力テストを実施します。共通部分と専門部分に分かれ、それぞれが全学ディプロマ・ポリシーと学位プログラムディプロマ・ポリシーに準拠しています。

- ・ 学問基盤力テスト（知識・技能・考察力の測定）
- ・ 実践・地域基盤力テスト（態度・習慣）
- ・ 国際基盤力テスト（語学力）

2. 3 基盤共通教育の内容（構成）

1年次に履修する基盤共通教育は導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目、探究科目、補習科目の6つに区分されます。

「科目」（8頁参照）ごとに進級条件や卒業要件が決められていますので、注意してください。（進級条件（18頁・19頁）や卒業要件（55頁～64頁）を参照。各科目の区分は進級条件や卒業要件に密接に関わっているので、確実な理解が必要です。）

基盤共通教育の分野・授業時間数・単位数など

区 分		分野名	授業時間数・単位数など	
科 目	領 域			
導入科目	スタートアップセミナー	スタートアップセミナー 学部導入セミナー	(1)週2時間1学期15週で2単位又は1単位 (2)集中講義 (3)実験・実習等を含む授業では、時間数が増える場合がある。	
基幹科目	人間を考える・共生を考える	人間を考える 共生を考える		
	山形から考える	山形から考える		
教養科目	文化と社会	哲学		
		心理学		
		歴史学		
		文学		
		芸術		
		言語学		
		文化論		
		法学		
		経済学		
		社会学		
		政治学		
		地理学		
		社会と倫理※		
		知的財産※		
	日本国憲法			
	自然と科学	数理科学		
		物理学		
		化学		
		生物科学		
地球科学				
応用と学際	応用			
	学際			
共通科目	コミュニケーション・スキル1	英語1	週2時間1学期15週で1単位	
		英語2※		
		英語3※		
	コミュニケーション・スキル2	ドイツ語	(1)週4時間1学期15週で2単位 (2)週2時間1学期15週で1単位 (3)集中講義	
		フランス語		
		ロシア語		
		中国語		
		韓国語		
	サイエンス・スキル	情報科学	情報処理	(1)週2時間1学期15週で2単位 (2)スポーツ実技は週2時間1学期15週で1単位
		健康・スポーツ	健康・スポーツ科学	
			スポーツ実技	
			スポーツセミナー	
		サイエンス・スキル	数理科学	
			物理学	
			化学	
			生物科学	
			地球科学	
医学				
工学				
農学				
キャリアデザイン	キャリアデザイン			
	キャリア教育※			
探究科目	詳細は別に定める			
補習科目	詳細は別に定める			

※印は2年次以降に開講する科目

(1) 導入科目

導入科目は、「スタートアップセミナー」と「学部導入セミナー」が開講されます。

スタートアップセミナーは、大学での主体的な学修にスムーズに適応できるよう、プレゼンテーションやグループワーク、レポートの書き方、調査・情報収集の方法など主体的・能動的な学修のために必要な技法を修得するための授業です。また「学部導入セミナー」は、学部教育への導入として学部における研究・教育内容等を学び、大学での学習イメージを確立するための授業です。

(2) 基幹科目

「基幹科目」は山形大学が教育上重視する「人間」・「共生」・「山形」をテーマにする授業科目です。「人間を考える」では、自然・社会・文化など、多様な学問的な視点から「人間」を取り上げます。また「共生を考える」では、自然と人間の共生、人と人の共生、社会と個人の共生という視点から、現代社会を共に生きるために必要となる多様なものの見方を学びます。「山形から考える」では、山形をフィールドとして、文学や歴史などの文化現象、さまざまな社会活動や生活、自然と人間との共生などに関して、学び、考え、創っていきます。講義、セミナー、フィールドワークなど、多様な形態で学びます。

これらの授業において、学生諸君が自分自身を見つめ直し、自らの将来像を描くための参考になればと願っています。そして「人間」・「共生」・「山形」という、この三つのテーマを切り口にして、学問の面白さを実感し、知・徳・体の調和のある人について考えてもらいたいと思います。

(3) 教養科目

専門分野に関わりなく、様々な学問分野に接し学ぶことによって視野を広げ、幅広い教養を身につけることは、人間としての魅力を高め、社会人として生きていくためにもとても重要です。教養科目はそのため、「文化と社会」、「自然と科学」、「応用と学際」という3領域にわたって多様な授業科目が開かれます。特定の分野に偏ることなく授業科目を選択し学習することを通じて、幅広い知識と多様なものの見方を身につけて欲しいと思います。

(4) 共通科目

「共通科目」は学生諸君に共通に学んで欲しい授業科目群であり、「コミュニケーション・スキル1（英語）」「コミュニケーション・スキル2（初修外国語，日本語）」「情報科学」「健康・スポーツ」「サイエンス・スキル」「キャリアデザイン」から構成されています。外国語によるコミュニケーション能力、数学・自然科学の基礎的知識や情報処理にかかわる能力といった基本的なスキルや、健康・スポーツの実技や講義、将来のキャリアについて考える講義など、国際化、専門化、高度情報化、多ストレス化の進む社会の中で「生きる力」を養う重要な授業科目群です。

① コミュニケーション・スキル1（英語）

大学での学修・研究、及び社会生活において必要とされる英語の実践的な基礎力の養成を目指す授業科目です。ますます国際化が進む社会の中で、みなさんが将来活躍しているような、基本的な英語の運用能力を修得することを目的とします。

② コミュニケーション・スキル2（初修外国語）

コミュニケーション・ツールとしてますます重要性を増す英語以外の外国語を修得し、諸外国の文化的伝統への理解を深めることによって国際的な感覚を養うことを目的とします。「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」「中国語」「韓国語」からなります。

③コミュニケーション・スキル2（日本語）

日本語は、外国人留学生の日本語能力の向上のために開設される授業科目です。外国人留学生は、できるだけ多く履修してください。

④情報科学（情報処理）

流通する情報や知識の量と質が高度化していく情報社会の中で、みなさんが適切に情報や技術を活用し対応していけるように、「情報機器の操作技術の習得」と「情報化社会における素養」を身につけることを目標としています。

⑤健康・スポーツ

人間の健康やスポーツに関して、理論と実践の両面から取り上げる領域です。健康問題も含めて多様なスポーツ現象に対する考え方を学びながら、生涯にわたってスポーツに親しみ、実践していくための「身体」について理解を深めることを目標とします。すなわち、理論や実践を通して、各人の身体現象を知ることにより、将来にわたっての健康やスポーツに関する「身体観」を培うとともに、スポーツ文化について科学の諸領域からのアプローチを試みるものです。

⑥サイエンス・スキル

理系の専門教育科目を学ぶ上で、特に必要と思われる数学及び自然科学の物理学及び化学の基礎的知識の修得を目的としています。必修指定を行うかどうかなどの履修方法については各学部、学科・コースにおいて定めています。

⑦キャリアデザイン

卒業後の将来やこれからの大学生活を有意義なものにしていく上で、「いかに生きるか」という問いかけを通して、自らのキャリアについて考え、それを言葉にし、行動に移すことができる力を養うことを目的とします。

(5) 探究科目

研究室インターンシップ等高度な学びにより専門教育への興味や理解を深めることを目的とします。

(6) 補習科目

入学時の学力に応じ、必要とされる基礎的な教育を行い、学力の向上を図ることを目的とします。

注1：「専門教育科目」とは……

基盤共通教育科目に加えて、1年次においても各学部の専門分野に関する科目（専門教育科目）の授業が開講されています。履修方法等については、自分の所属する学部の説明・指導に従ってください。

注2：「履修」とは……

ある授業科目を選んで受講し、学修状況や試験の結果等により成績評価を受けることを「履修」と言います。

注3：「授業名」とは……

基盤共通教育の授業科目は、原則的に「授業名」として表記します。

授業名は、授業テーマと分野名からなり、次のように表記します。

「○○○○○○（×××）」

授業テーマ（分野名）

[例] 数の仕組み（数理学）

3 バランスの取れた履修計画を

山形大学の基盤共通教育にはスタートアップセミナーのように、卒業要件を満たすために必ず履修すべき科目（必修科目）もありますが、それ以外にも多くの科目（選択科目）が開講されており、学生のみなさんは授業科目をかなり自由に選択できるようになっています。基盤共通教育のシラバスや時間割を参照し、自分にふさわしい履修方法を考え、自分の立てた学習計画によって履修計画（自分用の時間割）を作成してください。

もちろん、自由に選択できるといっても時間割上の制約や科目ごとの履修上の制限があります（21頁以降参照）。また学部・学科ごとに定められている基盤共通教育の履修方法と「卒業要件」を満たさなければなりません（「山形大学基盤共通教育規程集」（55頁以降）を参照）。

さらに、医学部、工学部、農学部の場合は、2年次に進級するための「進級条件（注）」が定められていますので、その進級条件も満たすことが必要です（18頁・19頁参照）。人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部の場合は進級条件が定められていませんが、2年次からは主として専門教育の授業が組まれるため、基盤共通教育科目の履修はかなり制約されてしまいます。2年次以降にも基盤共通教育科目を履修することは可能ですが、卒業に必要な基盤共通教育の単位は1年次に修得するようにした方が良いでしょう。

しばしば卒業要件や進級条件を意識するあまり、（滑り止めを兼ねて）必要以上に多くの科目を履修するケースも見られます。しかし、授業を理解しその内容を身につけるには十分な予習・復習の時間が必要です。あまりに多くの科目を受講することで、学習が中途半端になっては元も子もありません。進級条件、卒業要件を満たしつつも、無理のない学習計画に基づいたバランスの取れた履修計画を作って欲しいと思います。

注：医学部・工学部・農学部の2年次への進級条件について

「進級条件」は、小白川キャンパスから各学部のキャンパスに移るために必要な単位数の最低条件を定めたものです。進級条件には基盤共通教育科目だけでなく、1年次開講の専門教育科目も含まれています。また、工学部・農学部の進級条件は「卒業要件」とは一致していません。卒業要件に不足している場合は、進級後に必要な科目を履修して卒業要件を満たさなければいけませんので注意してください。